

活動レポート

日本技術士会北海道本部

防災委員会 都市部会

文責：防災委員会 都市部会 幹事 前田 研治

～能登半島地震を機に、日本海側の大規模地震と津波災害を考える～ 北海道南西沖地震から31年、当時を語り継ぐ

1. はじめに

防災委員会では、北海道での大規模災害の発生に備え、防災・減災に向けた基礎資料とすることを目的として、地震・津波の被災状況や復旧状況などを対象に、各地を視察する「防災研修会」を実施しています。令和6年度は、1993(平成5)年7月に発生した北海道南西沖地震による津波被害の当時の状況とその後の復興に至る過程での課題などを勉強すべく奥尻島を対象とした研修会を実施しましたので報告します。

2. 道内研修会の実施概要

- ・開催月日：2024(令和6)年7月10日(水)
- ・参加者：都市部会メンバー15名
- ・視察先：奥尻町役場及び青苗地区

奥尻町役場では、地域政策課の満島課長と被災後、奥尻町役場の災害復興対策室で様々な対応を担い、退職後は「津波語り部隊」として当時を語り継ぐ活動をされている竹田彰様に、当時の状況や復興に際しての行政の視点からの苦労話を伺いました。

また、当時被害が特に大きかった奥尻島南部に位置する青苗地区を視察し、当時を振り返りながら、臨場感あふれる講話をいただきました。



写真-1 奥尻町役場での講話の様子

(1) 北海道南西沖地震の概要

① 奥尻島の概要

奥尻島は、北海道の最西端に位置する離島で、東西11km、南北27km、周囲84km、総面積143km²の道内で2番目(北方領土除く)に大きな島です。

また、道内の離島では唯一天然温泉が湧いており、豊富な水産資源と数々の自然の美しさを備え、主に水産業と観光業が基幹産業になっています。



図-1 奥尻島の概要と震源地
(奥尻町HP、札幌管区気象台HPより図を引用)

② 地震の概要

北海道南西沖地震は、1993(平成5)年7月12日午後10時17分に発生しました。

地震の震源は、北海道南西沖(北緯42度47分、東経139度12分)で、震源の深さは34km、マグニチュード7.8という巨大地震でした。奥尻島は、当時地震計が設置されていなかったため、震度6の烈震(旧震度階)と推定されています。

③ 被害の概要

地震による被害は、地殻変動による地割れや陥没、建物の倒壊、液状化現象などの物的被害、特にホテルごと飲み込んだ奥尻地区での崖地崩壊は、島外からの宿泊客を含めて29人が犠牲となりました。また、この地震に伴い発生した津波は、地震発生から僅か2～3分という早さで奥尻島を襲い、特に南端部の青苗地区などは、地震および津波に加え、船舶や建物の出火があり、津波被害によって消火活動が困難であったために広範囲に延焼が続き、市街地は壊滅的状態となりました。

(2) 復興へのみちのり～行政の視点から

奥尻町は、発災後の10月1日に「災害復興対策室」を設置し、国や北海道の支援を受けながら各種事業を進めましたが、被害の大きさから単なる復旧とはならず、復興という形での「奥尻町災害復興計画」を策定し第3期奥尻町発展計画に沿うよう復興基本計画を定めて“まちづくり”を推進しました。着実な復興事業の推進により、奥尻町は1998(平成10)年3月に「完全復興宣言」をしています。

奥尻町の復興を可能としたのは、全国各地から寄せられた多くの義援金の中から、当初90億円を原資として被災者の方々の自立復興を促す支援事業を展開できたことも大きな要因となっています。

講話をいただいた竹田様からは、被災後の奥尻町は行政機能として「全てがお手上げ状態」の中、さらに町には復興計画やまちづくりに関わる専任部署がない中で災害復旧対応に翻弄されていたことや、各種復興事業を進めていく中で、被災した集落の移転に関する合意形成や、時間とともに変化する地域住民の意向への対応の難しさなど、「災害後のまちづくりの難しさ」を教えてくださいました。

また、青苗地区の視察でも、津波対策施設の整備に際して、国や北海道、地域住民との調整などの苦労話もお聞きし、感銘を受けると同時に、当時の行政の力強さを感じました。講話の中では、「被災地の行政の余力は殆ど存在しないため、こうした災害時にこそ技術士会のような団体が率先して力になってくれることを期待したい」と仰っていました。防災や災害後の復興だけでなく災害直後に何ができる

のか、我々技術士の役割というものを改めて考えさせられる研修会でした。



写真-2 青苗地区の津波対策施設(人工地盤)

3. おわりに

今回の研修会は、令和6年7月9日～10日の日程で行いました。往路は函館で飛行機を乗り継いで空路での移動予定でしたが、函館到着後に函館⇒奥尻の飛行機が濃霧のため欠航となり、急遽、バスで函館⇒江差、フェリーで江差⇒奥尻という経路変更を余儀なくされるというハプニングに見舞われました。

奥尻町役場には、9日午後に講話や現地視察の協力をお願いしていたので中止も考えましたが、奥尻町役場の満島課長のはからいで、研修を翌日10日午前中に振替えてのスケジュール再調整、さらには、経路変更に伴うレンタカー手配や役場の車利用などの配慮もいただき、そのお陰で何とか研修会を終えることができました。困った人がいるなら、惜しみなく手を差し伸べる、そんな粋なはからいに感動しました。改めまして、参加者一同、心より感謝申し上げます。



写真-3 奥尻島津波館にて
(前列左：満島課長、後列左2人目：竹田氏)